

さりげなく街に溶け込む庚申信仰の名残

市内を歩いていると、「青面金剛(しょうめんこんごう)」「庚申塔(こうしんとう)」などと書かれた石碑や石塔を見かけますが、これは、江戸時代に全国的に広まった庚申信仰が、この地にもあったことを示しています。

中国の道教思想では、60日に一度の庚申(かのえさる)の夜、人が眠ると、三尸(さんし)という虫が体内から抜け出し、神様にその人の罪を告げ口するとされていました。それを防ぐため、庚申の夜は村人が集い、身を清めたくて庚申様の掛け軸をまつり、夜を徹して飲食や雑談をしました。これが「庚申講」です。

石碑や石塔は、その記念に建てられたもので、仏教では青面金剛、神道では猿田彦(さるたひこ)の像が刻まれます。「三猿」が彫られているのは、申の日であることと、「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿が、身を慎むという庚申講本来の目的に重なるからだと考えられています。

路上の石像コレクション

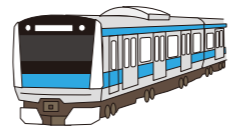


川口市周辺アクセス図



川口市経済部産業振興課

〒332-8601 川口青木2-1-1
電話:048-259-9018 FAX:048-258-1161



芝コース



電車、名刹、謎の石碑 商店街も自慢です 芝の魅力は多面的

JR蕨駅がスタート地点。大きな団地や戸建てが並ぶ住宅街のイメージですが、道端には、かつてこの地に庚申信仰が流行したことを示す石碑やお地藏さんなど、年代ものの建造物がみられます。一方、JRの線路や浦和電車区では、目の前を走る電車で鉄道ファンならずとも胸躍る思い。外環道沿いに進むと、コース最大の見どころ、長徳寺へ。徳川家の庇護を受けた名刹は、凛とした空気が感じられます。ふたたび蕨駅を目指し、戸田用水の遊歩道を進みますが、フレンドリーな雰囲気商店街に寄り道するのもおすすめ。一日でさまざまなまちの魅力が味わえます。

D-3 JR 蕨駅

川口駅、西川口駅よりも歴史が古く、開業は明治26年(1893年)。旅客駅と貨物駅としてスタートしました。乗車人員は4万8千人を超え、埼玉県内のJR駅では第6位です。かつては駅周辺に大きな工場が密集し、工場をつなぐ専用線もありました。



B-2 ニツ堂

方形造りの2棟がつながった、珍しいお堂。長徳寺の檀家が左側の聖観音堂を建て、その後2つを連結したといわれています。通常、閉められていますが、左側の聖観音堂は午年にご開帳されます。



A-2 つるがまるはちまん 鶴ヶ丸八幡神社

寛永3年(1626年)、芝村代官の熊沢忠勝が安房(現在の千葉県)の鶴ヶ丸八幡宮を移して造ったことが始まり。本殿は県指定有形文化財となっています。



B-2 ひむろ 氷室神社

約700年前の創建と伝えられ、奈良地方の氷室神社を勧請したと考えられています。本殿は鶴ヶ丸八幡神社と同じ流造。天正19年(1591年)には徳川家康から社領5石を賜りました。旧芝村の村社として住民のあつい信仰を集めました。



C-2 によいりんかんのどう 如意輪観音堂

江戸前期に造られた、県有形文化財の木造阿彌陀如来坐像がまつられています。高さ29.3センチの坐像の中に子供を抱えた立像(マリア観音)と十字架が納められています。県内でも数少ない、隠れキリシタンに関する文化財です。お堂は通常、閉められています。(像は県博物館に寄託されています)



B-1 ゴリラ公園

外環道の高架下に造られた公園で、名前の通り巨大なゴリラ像がお出迎え。公園を囲む土の道は本格的BMX(競技用自転車)コースで、休日にはレースも開かれています。そのほか、休憩施設のラウンジホールや水が流れるせせらぎも。時折動くゴリラの目に思わずびっくり。



B-3 ちょうとくじ 長徳寺

鎌倉・建長寺に属する臨済宗の寺院。創建は貞治3年(1364年)ですが、その約250年後、13世住持の龍派禅珠の時代に栄えました。天正18年(1590年)には徳川家康から社領40石が認められ、以後、徳川家から代々保護を受けました。文化財も多く残っています。



熊沢家の墓

代官の熊沢忠勝は龍派禅珠とともに親しく、慶長年間に2度火災に遭った長徳寺の再建、梵鐘の寄進などに尽力しています。境内の一角には忠勝とその一族が眠っています。

長徳寺のビャクシン

県指定天然記念物。ビャクシンはヒノキ科の常緑樹で、和名はイブキ。古く中国から渡来したと伝えられる建長寺のビャクシンが芽吹いたものといわれ、根回り4メートル、高さ13メートルの巨木です。

“メモ魔”住職が伝えたキリシタン弾圧



江戸時代に活躍した長徳寺13世住持・龍派禅珠は、日本最古の学問所である足利学校の校長を務めた高僧で、詩文集の「寒松稿」、日記の「寒松日暦」(ともに県指定文化財)を遺しています。

「寒松日暦」は、慶長18年(1613年)から寛永9年(1632年)まで書かれたと考えられ、中でも元和9年(1623年)10月の日記には、元和キリシタン弾圧事件にからむ信者救助のいきさつなどが記されており、高い史料価値を持っています。

この年の7月、3代将軍となった徳川家光は、ただちに江戸キリシタン信徒約100名を牢獄送りにしました。この中には代官・熊沢忠勝の娘婿にあたるレオ竹子屋権七郎がいました。その妻・夏も洗礼を受け、ルヒナという名を持つ信者。夏は故郷の芝村に逃げ、龍派に助けを求めました。

親友である忠勝の娘のピンチに、龍派は広い人脈を総動員して、幕府の重臣に助命を乞います。しかし、将

軍の意にそむく願いは簡単には聞き入れてもらえず、同年10月、とうとう夏は牢獄に送られてしまいました。そこで龍派は牢獄に同行し、役人に、夏が長徳寺の檀徒であること、今後龍派が保護観察し、キリシタン信仰をやめさせることを訴え、夏を救い出しました。

如意輪観音堂に伝わる阿彌陀如来坐像(県指定文化財)は、像内にマリア観音と十字架が納められていますが、これは夏が江戸から逃げ帰る際、信徒仲間から託されたものではないかと考えられています。



(上)阿彌陀如来坐像(県指定文化財)
(右上)像内のマリア観音
(右下)像内の十字架

知らなかった!
こんな芝、あんな芝

芝コース

No.5

川口市マスコット「きゅぼらん」

川口市内観光ルートマップ

D-2 JR跨線橋から B-1 コリラ公園

A-3 芝支所 A-2 鶴ヶ丸八幡神社

B-3 長徳寺